

Rotary Club of Sanuma 2024-2025年度 VOL 61

# 週報

佐沼ロータリークラブ

佐沼ロータリークラブ 2024-2025テーマ

ロータリーの活動で 自分を変化させよう

ロータリーのマジック

2024-2025年度 国際ロータリーのテーマ

会長 太田陽平  
 幹事 大畑好司  
 会報 猪股育夫

例会場 ホテルサンシャイン佐沼  
 ☎22-8180 FAX22-0327  
 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30  
 事務所 ホテルサンシャイン佐沼  
 ☎22-8180 FAX22-0327



## 第2929回例会 2024. 10. 17 No.15

〔職場訪問移動例会 於：伊豆沼農産ラムサール広場 12:30~13:30〕

### 本日の出席率

・本日の出席率 77.1%

### ニコニコボックス

・時間の都合上なし

### 会長要件 太田陽平会長

本日は、職業奉仕委員会の職場訪問例会です。担当の村上正弘委員長、提供していただきました伊藤秀雄会員ありがとうございます。

農業生産法人(有)伊豆沼農産さんは、経営理念～人と自然へのやさしさをもとめて～、「農業を食業に変える」を原点に、「精一杯地域の人と自然の恵みに感謝します。」を掲げ事業に取り組んでおられます。今日はよろしくお祈りします。

昨日、加藤亮会計と8月末に退会されました江川元徳会員へ名誉会員の楯を仙台の自宅まで届けてきました。大変喜んでいました。西門RCとの交流で協力できることがありましたらお力添えをしたいと、そして皆様にもよろしくとのことでした。

紫金山・アトラス彗星を観察された会員の皆様いらっしゃいますか？8万年の周期で太陽を回るとされる「紫金山・アトラス彗星」が日本各地で観測され、天文ファンの間で話題となっています。

紫金山・アトラス彗星は、2023年1月に発見された彗星で、地球への最接近は日本時間では13日で、この時の彗星と地球の距離は0.47天文単位（約7100万キロメートル）です。ちょうどこの頃から、彗星の見かけの位置が太陽から離れて夕方西の低い空で観測できるようになります。空の暗い場所であれば、肉眼でかすかに見えるかも知れません。市街地では肉眼で見るとは難いようですが、適切に設置したカメラで撮影す

る事で、ぼんやりとした姿を写すことができそうです。10月下旬以降は、彗星が太陽からも地球からも遠ざかっていき、徐々に暗くなっていきます。

今日の彗星の位置は、西南西に2~3.5等くらいの明るさで観察できそうです。宮城県の日入り時間は16時57分です。日入り後1時間前後を目安に観察するとよいでしょう。空の暗い場所であれば、かすかではありますが、肉眼でぼんやりとした姿が見えることが期待されます。双眼鏡や望遠鏡を使うと肉眼より観察しやすくなるでしょう。

そして、今日10月17日(木)は満月です。2024年のなかでは最も地球から近い満月（約35万7000キロメートル）となるため、今年の満月の中では最も大きく見える「スーパームーン」と呼ばれます。

国立天文台によると、今年最小の満月（2月24日）と比較すると、見かけの直径は約14%大きく見えるとのこと。ただ、写真などで比較しない限り、見た目の大きさと実感するのは困難だそうです。

今日の天気予報は晴れです。8万年に一度の天体ショーと年に一度の天体ショーを楽しみたいと思います。

### 幹事報告 大畑好司幹事

- ・一般社団法人とめ青年会議所より 創立55年記念式典出席に対するお礼状が届く
- ・川崎大師RCより 会報が届く

○**職場訪問** (担当：村上正弘職業奉仕委員長)  
 本日は、伊藤秀雄会員の会社、伊豆沼農産での職場訪問例会の開催をご承諾いただきましてありがとうございます。地域に密着した形で食に関する事業に取り組んでおられます様子を見聞きし、色々と勉強させていただきたいと思います。

### ◎(有)伊豆沼農産について (佐藤耕城社長)

本日は、伊豆沼農産までお出でいただきありがとうございます。日頃から皆様方にお世話になっておりますこと感謝申し上げます。

最初に会社の概要についてお話し、その後に生ハムの仕込み、塩を擦り込む作業を体験していただき、続いて熟成している所を見ていただきます。

・会社概要  
 創業年月日 昭和63年10月1日  
 代表者 代表取締役 伊藤秀雄  
 従業員数 33名  
 営業種目 農業（養豚・水稲・果樹）、食肉製品製造業、食肉処理業、そうざい製造業、アイスクリーム製造業、菓子製造業、酒類製造業（どぶろく）、飲食店営業、農産物直売所 他  
 取引先 百貨店（2004年～香港輸出）スーパー、飲食店 他  
 主力商品 伊豆沼ハム 伊達の純粋赤豚  
 経営理念 人と自然へのやさしさを求めて…  
 「農業を食業に変える」を原点に、精いっぱい地域の人と自然の恵みに感謝します。

詳しくは、配布いたしましたパンフレットをご覧ください。なっております。

・伊藤秀雄会長のお話  
 本日は、職場訪問例会のため、伊豆沼農産までお出でいただきありがとうございます。

パンフレットにもありますように、我が社は1988年「農業を食業に変える」を経営理念に農産物を作る仕事から、食糧を供給する仕事へとシフトしてまいりました。2004年からは経営理念を「人と自然へのやさしさを求めて」と進化させ、農村で何が出来るかを考えるようになりました。

又、我々は農村を元気にすることに取り組んでおります。人が元気がないと農村は元気がなりません。この周辺では50%以上が老人です。その中で何が出来るかといいますと、65歳以上の人をどの様に使うかということが、今からの農村を元気にする最大の要素だと思っております。

よく言いますが、農村では「きょうよう、きょういく、ちょきん」がほしいと…。これは「今日用事がある、今日行く所がある、筋肉がほしい」と言うことです。用事があるって行く所があり、自立歩行出来ることが大切です。特に足の筋肉をきたえて自分で歩きたい所に行く事が出来るようにし、元気で明るい農村を目指し、みんなで頑張りましょう。



太田陽平会長のあいさつ、会長要件



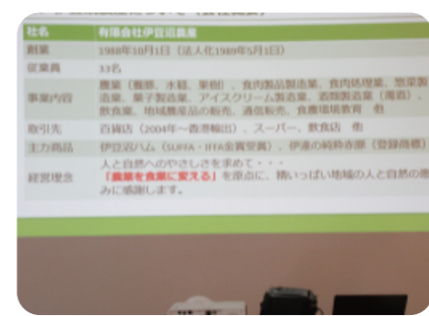
初級かまどで炊いたご飯と赤豚のカツでおいしい昼食をいただきました



熱心に説明を聞く会員



佐藤耕城社長による会社の紹介



豚生ハムの仕込 (塩の擦り込み)



伊藤秀雄会長のあいさつ